本紙は女性による平和と平等を推進します

回覧

発行所
㈱全国婦人新聞社
〒160 本社　東京都新宿区西新宿3―7―28　宝幸西新宿ビル
電話03（343）1846代表
振替口座　東京　172320
〒543 支局　大阪市天王寺区勝山2―202
電話06（771）7415

全国婦人新聞

ご購読料
1年　3,800円
（郵送料とも）
現金・切手・振替で前納
（月3回発行）
10日・20日・30日

うすくちは心もち控えめにお使いください
東
ヒガシマル醤油
＊醸造元　兵庫県竜野市　ヒガシマル醤油株式会社

障害児と健常児のふれ合いの場に

ふきのとう子ども図書館

吹雪の中で喜びの棟上げ式

病弱児や障害児に本の喜びを――とユニークな活動を続けている「ふきのとう文庫」＝札幌市中央区北六西二六、山京ビル内。小林静江理事長＝は、いま札幌市内に「ふきのとう子ども図書館」を建設中である。子どもの日五月五日に開館の予定だが、全国でも初めての、障害児と健常児のふれあいの場〝来るわけだ。もちろん健常児も利用出来、障害児のための図書館が出になれば……という。土地や建物（木造二階建て百八十五平方メ）の資金は寄付で何とかまかなえたが、内部設備などの資金が不足。同文庫は、全国の支援者、理解者に協力を訴え、〝追いこみ〟の資金集めに懸命だ。

〝さいはての地〟北海道で起った「ふきのとう文庫」の活動は、〝障害児にも本を、すべての子に読書の楽しみを〟という運動のトップを切ったものであった。病院の小児科病棟内に文庫の開設、重度身障者に対する図書郵送料を無料にという運動、そして布の絵本つくり――。障害児の読書の問題を語るとき、「ふきのとう文庫」の活動を抜きにしては語れない。十数年間のりこむように、この運動をがむしゃらに進めてきた小林静江さんのかげには、二十五年間寝たままで逝った妹さんへの悲願がこめられている。

ふきのとう子ども図書館完成予想図

開館はこどもの日

〝読書の楽しみ〟みんなに

とても本が好きな寝たままだった妹

昭和四十五年、小林さんは妹さんを失った。二十五年間背椎カリエスで寝たきりの生活の中で、図書原稿整理のアルバイトをし、得た金を、点字図書館や障害児施設に寄付していた。〝就学免除〟になって「学校に行きたい」という思いを抱きつづけた妹さんのことを小林さんは忘れることが出来なかった。初七日を終え、東京から北海道へ帰るとき、千歳空港から札幌へ向うバスの窓から見える紅葉の美しさに、妹さんを自然の中につれ出してやれなかった後悔が胸いっぱいに広がった。小林さんは、妹さんのためにも、本を通して、在宅障害者へのボランティアをしたいと決心した。

この前年の四四年、小林さんは夫の転勤と、年老いた姑の世話のため、十八年間勤めた岩波書店をやめ、北海道江別市に来た。小林さんは岩波書店で子供の本編集十年の経験があり、自分自身も子供の本が好きだったので、この間、五千冊ほど児童書を買いためていた。この本を文庫を開いていた。この文庫を障害児用に切りかえた。

〝切りかえた〟ものの難問はかりで軌道にのるのは容易ではなかった。初め病気の子や障害児のところへ本を持ちこみ、読んでやれば……と思っていたが、どこにそうした子がいるのか見当もつかなかった。遠いところの子には往復送料を負担して貸し出すことにしたいと考えたが、郵送料値上げのニュースがあって、〝個人の限界〟を痛感することばかりだった。

この運動は全国的な共感をよび、たくさんの署名が集まり、五十一年の郵便料金改訂の折、〝図書館法による図書館と重度障害者との間に発受される身体障害者用書籍小包郵便物の料金は、書籍小包料金の半額〟となった。

財団法人に認可

が、これでは、任意団体の小さな〝ふきのとう文庫〟は、半額の恩恵に浴さない。そこで社会的信用を得て、運営資金の寄付を募ろうと考え、文庫を財団法人にすることにした。もう文庫は発展してとても小林さんの手に負えなくなった。

画期的な布の絵本いまや全国に普及

有名な〝布の絵本〟づくりは五十年から。ある日、小樽市立病院の文庫で、小林さんは全盲の子は耳だけは聞こえるのです。

こんな苦労を耐え抜くことのできたのは子どもたちの喜びの大きさだろう。点滴を受けながら、酸素テントに入ったまま、本を求める子ら。ガンなど不治の病いにおかされながら物語に感動する子ら。子どもたちの喜びが支えだった。

自然に恵まれたあの子達の城を

全国に支部も出来、いま九ヵ所になった。貸事務所では手ぜまになり、布の本の製作作業場や、図書の収納スペースにもと欠く。ちゃんとした図書館がほしい…。しかし、土地、建設費、どれをとっても頭が痛いことばかりだ――。

そんなある日、再生不良性貧血の九歳の少女が、退院を許されて、家族そろって小林さんの家に来た。彼女は、二歳の時から病院生活をしており、「ふきのとう文庫」の最多読児である。彼女は、小林さんの家の庭の隅の畑で大根を二本、一度にひきぬいた。その姿は土にふれた喜びにみちあふれていた。それを見て、小林さんは、自然に近いところで、障害児、病弱児の城をつくろうと決心した。

皆なの理解の中で

「ふきのとう文庫」は、札幌市西区手稲平和三二五―三百三十平方メの土地をもっていた。法人になるとき、理解者の近藤キクさんから寄付を受けたものだ。背後に川が流れるいい環境で、しかもバス停のまん前だ。この隣接地をさらに三百三十平方メ買い足した。この資金は、カンパと北海道新聞社福祉振興基金から三百万円借金してまかなった。ついで建築費のカンパ集めに入った。なかなかハカがいかなかったが、国際ソプラノ・チミスト札幌のチャリティコンサートの資金や、三菱財団、北海道共同募金などから大口寄付が入り、思いがけず一挙に、夢がかなった。

大口寄付のうち、特に話題をまいたのは、この八月で閉店した喫茶店「コージーコーナー」からの五百万円。同店は二十六年間札幌のコーヒー党に親しまれてきた店だったが、店じまいにあたり二十六年間、客が払ってくれたコーヒー代の一部を…と「ふきのとう」に贈ってくれた。百円、千円といった浄財も全国からきた。筋ジストロフィの子供が、クリスマスに親からもらったお金や、クラスの子どもを病気で失った先生のカンパなど、胸の熱くなるような金ばかりだ。

もう一踏んばりだ

図書館は棟上げも終わり、急ピッチで建築中。半地下の収蔵庫、一階の事務室、二階の布の本づくりの作業場を除いて、ワンルームの大きな図書室。もちろん車椅子で出入り出来る。図書館の庭では、畑も作る予定。「障害をもつ子どもを、自然に親しませ、土にふれさせたい」からだ。また、健常児にも来てもらい、いろいろな子どもの交流の場にしたい、という。

こうして、雪とけの終わった五月五日オープンの計画。ここで困ったのが内部設備。お金は建築につかい切りもうない。書架、暖房器具、展示用パネル、最低そろえたい図書、遊具等で、どうしても五百万円いる。〝障害児の城〟に一人でも多くの人の協力を――とよびかけている。

「ふきのとう文庫」＝札幌市中央区北6西26山京ビル、01・642・7405、振替小樽2300

身障児や病弱児にすばらしい本をとけんめいの小林さん（左）

武蔵野音楽大学楽器博物館

世界の楽器三千点

名器やら珍器？やら

江古田校―鍵盤楽器展示室

昨年、大きなニュースの一つに芸大汚職事件がある。本物、ニセ物の当否はともかく、バイオリン一丁が千六百万円。その後もリベートつきの楽器購入、多額なレッスン料など〝が明るみに出るにつれて〝楽器は金持だけのものか〟という怒りも広がった。この事件で楽器不信が生まれたとすれば楽器がカワイソウだ。そこで、いささか代弁者の心意気もこめ、楽器・音楽の原点を求めて武蔵野音楽大学の「楽器博物館」を訪ねた。

同館は西武池袋線の武蔵野音楽大学江古田校舎と同入間校舎の二ケ所に付設されており、世界各国の楽器類約三千点を所蔵している。同大学が昭和二十八年から研究資料として集めてきたものだが、十四年前、伊丹市の邦楽器研究家・水野佐平氏から邦楽器コレクションを寄贈されたのをキッカケに博物館として発足。

水野コレクションは近江八景金蒔絵の琴、平安末期の伏見宮邦永親王の御書入り笙など約二百点で、入間校舎には、これと他の六百点の資料を合せて展示されている。もう一方の江古田校舎には約二千二百点が収められており、世界の楽器を広く知りたい人にはこちらを勧めたい。ともかく江古田校舎に足を運んでみよう。

館内は一階に約百二十台のピアノ類、二階にヨーロッパの民族楽器が中心、三階はインド・アフリカ、中南米、日本、アジアの各民族楽器に分類されている。何種類くらいの楽器があるのかというと「息をふき込むフルート類、ヴァイオリンのように弓をつかうもの、膜のあるタイコ類、固体のかたまりカスタネット……など音の出し方で種類は分けられても、それぞれの楽器をあげるとなると……難しいですね」と同館職員の石作久美子さん。ちなみに、いま話題のヴァイオリンにしても、一般的な型の他に、スリコギ型のポケットヴァイオリン（野外でダンス練習に使った小さな楽器）、シュトローヴァイオリン（録音用のフッパが付いている）などがあり、共通点は弓を使用するだけで弦の本数も違う。一階のピアノ類にしてもグランド・アップライト、旅行用の携帯ピアノなどさまざま。珍らしいのはハープをピアノ化したハープピアノ。また世界でも五、六台というヤンコピアノ。これは百年前にヤンコが手の小さな人にと鍵盤を改良したもので、一つの音を出すキーがタテに三ヵ所。普通は真横にドレミファソラシドと弾くのだが、これは横、斜めと指の大きさに合せて三ヵ所のキーを選べる。まことに結構なのだが……この鍵盤をマスターすると一般のピアノが弾けなくなるため普及しなかったという。

英国のヴィクトリア女王がナポレオン三世の結婚祝に贈ったピアノは、ナポレオンの帽子を象徴したアップライトピアノ。光沢のある茶系の木が材質で、念入りな彫刻をほどこし見るからに高級品。

グッと庶民的なものに本箱付ピアノがあった。「日本ではピアノはぜいたく品ですが、ヨーロッパではピアノが生活に解け込んでいるんですね。本箱だけでなく化粧台と一体になったものもあるようです」と石作さん。ロウソク立てのついた古いピアノも多い。この当時と現代のピアノでは音が違う。

「ピアノはより強く、より大きな音をめざして改良されてきたので、かつてのピアノは音量はないけど柔らかい音色です。昨年、ピアニストのイェルク・デームス氏を招いて百年前のピアノ二台による演奏会をしましたが、キラキラした音色という感想をもった人が多かったですね」（石作さん）

同館のピアノ類は比較的オープンなので、そのピアノの鍵盤を押してみたら、ちょうどオモチャのピアノのような甘い音色が返ってきた。

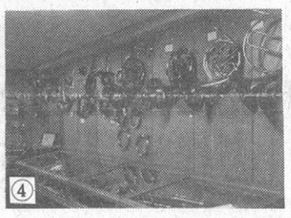
二、三階の民族楽器はオーケストラ演奏用の立派な楽器をはじめ、十八世紀のフランス社交界で流行したハーディ・ガーディ。辻音楽師が大に引かせた手廻しの自動演奏ピアノ（オルガニーリョ）など歴史的な資料が並んでいる。なかには楽器とは思えないようなものもあり見飽きない。たとえばスリコギ鉢のようなターラ・ベッキイ。これはスイス人がヨーデルを歌うとき、なかでコインを廻して使う。鉢の大小によってビューンという音色にも高低が出るという。グズラ・ガトルルも台所用品を楽器にしたもので、こちらはツボに皮を張り、その真中に差し込んだ棒を引っぱって音を出す。東南アジアには寿司巻きのような竹の楽器もあった。

また民族楽器は手近な素材を利用したものが多く、日本のホラ貝、インドはカボチャで作ったシタール、ハワイはヤンなどリエステルの表面に塗布されている、磁性の強い鉄粉が音をひきつけ保存。これは鉄に磁性があるからできる業です。

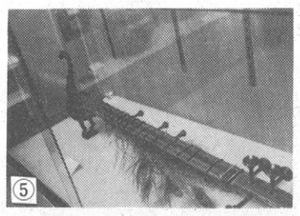
①

②

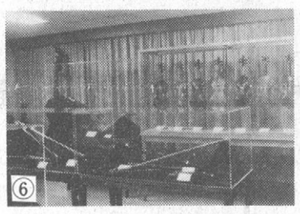
③



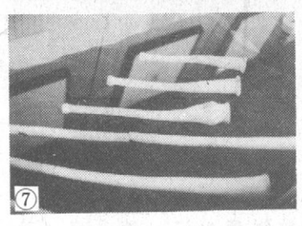
④



⑤



⑥



⑦

①取手を回すと自動的に音楽が流れる、オルガニーリョ。大きなオルゴールといった楽器。
②左はグランドピアノを縦にしたキリンピアノ、右は本箱と合体した庶民的なピアノ
③メタルクラリネットの歴史的変遷を実物で説明
④二階はヨーロッパ民族楽器。その一室にホルン、トランペット類が展示してあった。
⑤インドの民族楽器、カボチャで作ったものだが、クジャクの装飾が人目をひく
⑥昨年話題をまいた、名器バイオリンの数々。型は同じようにみえるが、それぞれ違う
⑦象牙のフルート

婦人手帳

★★★　一九八二年の正月は珍らしい程、穏やかな日が続いた。お酒を少し飲んで三カ日はせっせと年賀状を書いた。例年なら暮のうちに済ませるのだが、その気持になれなかった。年賀状の行革もあやしい。最後に、そのまとめが〝防衛費の突出〟だった。海の向うからの怒号に気押されたのか、日本の主体性はどこにある。あるいは、最初から計算づくで国民の期待を裏切ったのだろうか。そう考えると「おめでとう」とは書けなかった。

★★★　うららかな元旦。盃に受ける陽の光にも心が和む。そして届けられた、先輩の、友人の、親戚の年賀状を見ていくと、その一人一人の顔と、ある時の印象・出来事が鮮明に浮びあがって、自分の半生も回顧される。動物をいっぱい飼っていた駐在さんを記事にした、今年もその駐在さんが賀状をくれた。「酒の出来るまで」の取材に応じてくれた造り酒屋のご主人がことしも酒造りの喜びを短歌に託してきた。もう何年になろうか、毎年の歌をそろえたら簡単な歌集になりそう。そうした、人との触れ合いがもたらす幸せも、日本という美しい国土に生まれ、平和が保たれているからだ。ともあれ〝心をこめて賀状を〟と筆をとった。時間はかかったが、それなりに満足できた。

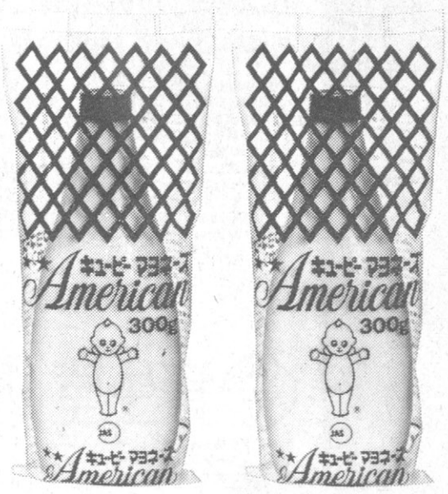
★★★　松のとれた世の中は平常の軌道にもどった。この年はいかなる年になるか？　企業も団体も役所も「内外ともに厳しい年」の挨拶で仕事が始められたはずである。新聞の一面に躍る文字は〝早くも―日米「極東有事」研究へ―。防衛費突出の次の展開はなにか不安を予想させる。一方で、照葉樹林がほぼ消滅したとの環境庁の調査が報告されている。ブナ、シイなど陽に照りはえながら、有史以来わが国の山野を覆ってきた木々が、鎮守の森などを除いてほぼ絶滅されつつある。開発無残／昨年の暮には日本ザルなどの野性動物も年を追って減っていると伝えられた。古くから馴染んできた美しいものは消滅し、恐ろしげな影がのし歩く年。そんな予想は外れることを祈りたい。

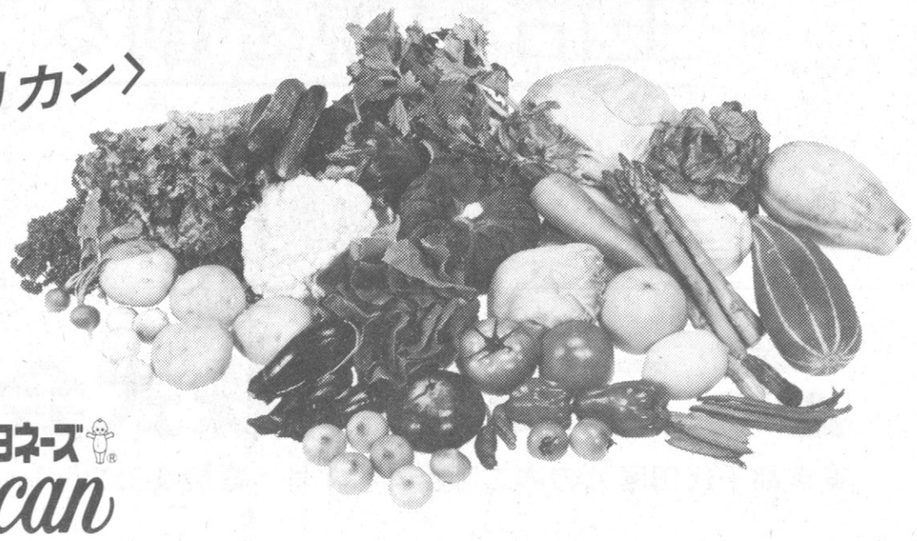
音を鮮やかにストック。

鉄が身を粉にして音を吸引。今や音楽に、会議に大活躍の録音テープも、鉄が重要な役割をはたしています。強化ポリエステルの表面に塗布されている、磁性の強い鉄粉が音をひきつけ保存。これは鉄に磁性があるからできる業です。

新日本製鐵

★新しいマイルドなマヨネーズ★★
キユーピーマヨネーズ〈アメリカン〉





素材の自然のおいしさを大切にする、薄味タイプのキユーピーマヨネーズ〈アメリカン〉。塩分をひかえた味わいは、野菜サラダはもちろんどんなお料理にもぴったり。あなたのお料理のレパートリーをひろげてくれます。

★★キユーピーマヨネーズ American

テレビ

主婦の意識を調査

時間きめて見る傾向

嫌われる誇大、下品CM

民間放送が発足して三十年、テレビで放送するグループ、「東京のこだまの会」（地方代表三名）は、東京都内で、民間放送に対する主婦の意識調査をテレビについての意識調査を行った。それによると、テレビを見る時間は夜の時間帯が、約三十%、四十五分間が全体の三分の一、番組数が多くなるにつれ減少する人が多くなった。また、夜の番組になるとなるほど、見る人の数が少なくなる。番組の質については、「品位を保つ」「家族で見られる」「ためになる」「楽しい」などの番組を望む声が多かった。

「東京のこだまの会」（地方代表三名）は、東京都内で、民間放送に対する主婦の意識調査を行った。それによると、テレビを見る時間は夜の時間帯が、約三十%、四十五分間が全体の三分の一、番組数が多くなるにつれ減少する人が多くなった。また、夜の番組になるとなるほど、見る人の数が少なくなる。番組の質については、「品位を保つ」「家族で見られる」「ためになる」「楽しい」などの番組を望む声が多かった。

テレビを見る理由

順位	理由	10 20 30 40 50 60 70 80 90 100%
1	気楽に楽しめるから	75%
2	世の中のことがよくわかるから	62
3	くらしに役立つから	39
4	心を豊かにしてくれるから	27
5	教養が高められるから	24
6	見るのが習慣になっているから	23
7	じまっぷにになるから	15
8	その他	4

東京のこだま会

テレビ放送開始（昭和28年）から、六年、六年目大学を卒業した。「明日の子たち」（現代中心のドラマ）、三人娘シリーズ、金曜テレビ（連続ドラマ）、情報センター、クイズ、四人がやっこ、ニュースショー、小動物ショーなどを見ている。

各代を通して「教育番組の多くが、ドラマ、教養番組である。ためになる番組が少ない。番組の質は、ドラマ、教養番組である。ためになる番組が少ない。番組の質は、ドラマ、教養番組である。ためになる番組が少ない。番組の質は

「懸崖の蘭」と「招福の白ねずみ」

初春を迎えまして誠におめでとうございます。礫川婦人会も今年で三十周年を迎えます。その喜びと皆様の幸福をお祈りし筆をとりました。

一枚の絵は「懸崖の蘭」。その幽雅な気品は好んで画題にされますが、だれしもが望む清明な心境にも通ずるものでしょう。また一枚は、稲穂にたわむれる「白ねずみ」。もともと福の神の使いとして縁起のよい小動物ですが、豊かな実り、招福の祈念として、いずれも八十歳を迎えた私の一心をこめて描いたものです。これからも皆さまがたと互いに手を取り、高めあいたいと思います。

礫川婦人会（文京区小石川）　会長　川口里子

戦後いくつもの地域婦人団体が生まれ、婦人たちの連帯の基盤をつくった。「礫川婦人会」もその一つである。〝明るい社会の建設〟を大きな眼目とし、東京・小石川の地名に因んで「礫川」と呼称し、結成されたのが昭和28年の2月、今回創立30周年を迎える。

会長の川口里子さんから、その喜びを託し、さらに婦人の地位向上の願いをこめて、当社に絵と文が寄せられた。

他にも同じような喜びを頒っている地域婦人団体も少くなかろうと思われる。国連婦人の10年という一つの節目に、目立たないが着実な歩みを続けている婦人たちに敬意を表しつつ、川口さんの作品を紹介しょう。

ちなみに当全国婦人新聞社は昨年、創刊30周年を祝った。同じ喜びを喜びとするものである。

奥さまワイン入門　葡萄色の世界 ⑤

ワイングラスと小道具たち

辻　綾子

奥さま方対象に、楽しいワインの飲み方、マナーを解説する〝ワイン教室〟の先生。この道六年のベテラン。五十三年十月から、サッポロビールのポレールワイン教室の専属となり、現在、チーフ・コーディネーター。二男の母である。（ポレールワイン教室コーディネーター）

心に残るすてきなパーティーには、集った方々一人一人の心遣いも必要ですが、演出も大切な要素です。そこで今回は、ワインパーティーにはなやかさをもたらしてくれる。ワイングラスと小道具にスポットライトをあてました。

☆ワイングラス

家庭で気楽にワインを楽しむならば、特にグラスに気を使うこともありません。これからグラスを揃えようと思っている方は、次のようなグラスを選ぶとよいでしょう。

ワイングラスと一口にいってもいろいろな形があります。赤ワイン、白ワインによって、また産地によってそのワイン特有の形のものがあります。

例えばボルドーのものはU字形に近かく、ブルゴニューは大ぶりでやや扁平形。白ワインを産するアルザス地方のグラスは、手の体温で温度をさまたげないように脚が長く、ドイツのライン、モーゼルのグラスの脚は、薄い茶や緑色をしたものが伝統的に使われています。

まずワイングラスの備えるべき条件としては、グラスの下に長い一本の脚がついていること。これはワインには飲み頃の温度があり、手の体温が伝わらないように必要なのです。脚つきグラスのはじまりは中世以後ベネチアからで、現在のスマートなグラスは、イギリスで作られるようになってからといわれています。

次にワインの色を楽しむために、グラスは無色透明で模様のないもの。形は香りをグラスの中にとどめるために、先がややすぼまっているチューリップ形がよく、大きさは、フランスでは二三〇㍉㍑入るのがベストとされていますが、日本人にはちょっと大きすぎますので、赤、白兼用ならば（一五〇～一八〇㍉㍑）位がよいでしょう。

さらに望むならば唇にふれる感触から出来るだけ薄手のもの。こうしたすべての条件を満たしたもの、それはクリスタルグラスにとどめをさすでしょう。グラスのエチケットとしては、常に清潔に、よく乾かして食卓へ出して下さい。

正式ディナーでは、グラスは皿の右上にセットされ左からシャンパン、水、赤、白ワイン用と並べられます。なぜグラスを右にセットするかといいますと、飲物は右側からサービスする事になっているからです。

☆ワインの栓抜き

オープナーまたはコルク・スクリューとも呼ばれています。基本はT字形です。他にテコを応用したもの。コルクを両側からはさんで引き上げるスパット栓抜き。コルクにスクリューを刺しこんでいくと自然に抜けるダブルアクション式等、種類は多くあります。どれを選ぶかは好きずきですが、しっかりしたものを選んで下さい。

食卓を豪華に演出
やっぱりクリスタルが芳香生むデキャンター

☆

☆クーラー（ソー）

ワインを冷やすために使う道具。冷蔵庫で冷やしてもよいのですが、クーラーがあると食卓が豪華になりますし、ワインが最後まで適温で飲めるという利点があります。金属、木、ガラス製がありますが、手入れの簡単なのは金属製のものです。

☆デキャンター

デキャンターとはつめ替えという意味です。長い期間寝ていた赤ワインには、オリが見られることもあります。そこでオリが混じらないよう、デキャンターに移しかえます。こうすることでワインは空気となじみ芳香が生まれて来ます。

☆パニエ

籐で編んだかご。ワインバスケットの事をいいます。これは年代物の赤ワインを、酒倉（キャーヴ）から食卓へ運ぶ時、オリが浮きあがらないよう、そのままの状態で持てるよう、作られたものといわれています。

ワインをパニエに入れる場合はラベルはよく見えるよう上向きに。又グラスに注ぐ時は、かごの手のところを持ち、静かに注いで下さい。

☆カラフェ

デキャンターと同じく、ボトルから移しかえる時の入れ物です。ワインの風味、活気が生まれて来ますので、ホテルやレストランでカラフェを注文する人は、ワインをよく知っている人といわれます。赤ワインにかぎらず白ワイン、ロゼワインにも使って下さい。1・8㍑（一升瓶）瓶なら飲まれる時は、このカラフェに移して飲まれる事をおすすめします。

☆タートバン

ホテルやレストランで、ソムリエが、利き酒用の銀の小皿のついた長いヒモを、首からたらしているのを見かけた事はありませんか？お客様に注文のワインをお出しする際、色、香り、味をテスティングする盃の事をいいます。ワインの色の度合いを調べるために考えられたものです。

☆

レッドワイン

ブランデー

リキュール

シャンパン

グラスいろいろ

大阪市消費生活合理化協会
12回目の恒例公開パトロール

大阪市消費生活合理化協会（山根隆子会長・会員四十五万有力六婦人団体で結成）恒例の歳末公開パトロールは、第十二回を迎え（五十六年）梅田の阪神百貨店地下食料品売場を対象に行われた。

パトロールは第一班（班長山根会長・副班長中久子常任理事）は魚、調理食品（かまぼこ、天ぷら、つけもの、めん類）。第二班（班長大林副会長、副班長清水常任理事）は肉、冷凍食品、乾物、珍味、食品催場。第三班（班長神戸副会長、副班長山田常任理事）が野菜と調理食品を主体にして、約五十分にわたって行われ、その結果について阪神百貨店側と懇談会が持たれた。

最初に各班の代表者から意見が次のように述べられた。

▽第一班＝山根班長は『鮮魚はほとんど全部といってもいいくらいに表示がございません。たとえワンパックが一〇〇㌘二〇〇円とありました。近海イワシが標準小売価格で三〇円～十五円と聞いているのですが。鯛なんかでも一四二十五〇〇円とか、いくらとあります上に一〇〇㌘の値段をお書き頂いたら納得するのではないかと思いました。野菜では一〇〇㌘いくらと書いてありましたのが、ようにんじんと、玉ねぎだけでした。お魚は新しく、特に切身のパックを目玉商品というようにして、小さいケースでお売りになっております。それは非常に新しく値段も手頃で、鮮魚の売場のところで料理してもらったりする手間もはぶけるし、もっと大々的にして頂きたいなと思いました』

▽第二班＝清水常任理事は『珍味の方は店員の服装は衛生的ですが、まちまちでありました。そしてこみ箱が見当りません。単位価格表は見やすかったということと、肉類はお客様に売る時には一寸ずれて取扱っている点が気になった。

冷凍食品ではメーカーにより湿度、温度に差があるのはいかがでしょうか。』

▽第三班神戸班長は『調理食品というのは、おにぎりなど。野菜の方は玉ねぎはグラム表示されていましたが外のものは全部一個いくらとか、一袋いくらとか、そういう表示でした。今日は特別に一〇〇㌘いくらでかけて頂きましたけれど、野菜はすべてといっていい位に標準小売価格より高い。衛生面であるとか、計量とか、そういう面は清潔になって安心して買うことが出来ると思った。消費者の方にハッキリしないで少し新しい計量器をおいて頂けたらと思われる店もありました。

陳列ケースのおおいですが、今日は満点でした。いつもあのようにしてほしい。

このあと個々に気付いた点の指摘があり、まとめて中川常任理事より百貨店へ次の要望がなされた。――食料品部は特に通路が広く衛生的であったということは皆さんおっしゃっていますし。お魚も野菜もグラム表示をこれからもどうぞ付けて頂きたいと思います。商品は新しいのですけれども、価格は一寸高い。あれはどういうふうになるのか説明を頂きたいと思います。

陳列ケースはとても衛生的になっておりましたが、中でふたが無いのがありました。色々な人が通るところですので、ふたはして頂きたいと思います。計量も大体いいようですが、針が止まらないうちに降ることもありますので、計量の点検を実施なさるのかも、お答え頂きたいと思います。

これに対して、杉山建二食品部長が回答に立ち「十分皆様のご意見を参考にいたしまして改善してみたいとこう思っております。売場の運営について少し申上げますと、衛生面につきましては売場で自主点検リストというのを作りまして毎日売場でチェックをしておる訳でございます。同時に商品試験室の方で定期的に、それは毎日でございますが、売場を廻りまして毎日商品のサンプルを抜きまして、それを試験をしておる訳でございます。そういうことで売場のゴキブリの問題、そういうものも含めましてあらゆる面からチェックをする、アドバイスをする体制を強化したいと思います。それからもう一つ大事なことは食品添加物の問題でございます。これは商品試験室の方で陳列の商品全部につきましてサンプル試験をしております。価格の問題でございますが、非常に値段が高いじゃないかということでございますが、私共は質のいい商品を揃える努力をしております。魚で申しますと、鮮度ですが、産地直送といいまして、和歌山の方から毎朝その日に上りましたものを持ってくる。鮮度を重要視しておりますので、お値段が高いということがございます。これは商品の品質と価格ということのバランスになる訳でございますけれ共、奉仕コーナーであるとか、お買徳な商品をそろえるということも合せて考えておる訳でございます。ビニールのシートがはずれたりいたしますので、ご指摘のように十分ではないと思います。そういうものに早急に取替えたいと思っております。その外計量器の問題でございますが、定期的に点検をしております。ご指摘がありましたように針が止った状態、それから古い器具、古いケースもありますので機具を変えて行きたいと思っております。」と詳しい説明があった。

次に大屋大阪市消費者センター所長のあいさつ、最後に大林志栄副会長の閉会のあいさつで散会となった。

鮮度値段設備など
じっくり話合い
阪神百貨店食料品売場

第一班のパトロール（左端山根班長）

パトロール後の懇談会であいさつする山根隆子会長

懇談会に出席のデパート側。向って右から逸見サービス部長、杉山食品部長、伊東食品第三課長、上原食品第1課長、岡村食品第2課長、森田食品第4課長